

塩山シネマ 映画館



代表者名 代表 渡邊 真吾 **設立年月日** 1957年(昭和32年) 3月20日
所在地 〒404-0042 山梨県甲州市塩山上於曾 1138-1
T E L 0553-33-2451 **F A X** 0553-33-3181
E-Mail enzan.sw.dcp@song.ocn.ne.jp **U R L** https://r.goope.jp/shinema4o5
資本金額 0円 **従業員数** 0人



代表 渡邊 真吾

テーマ

非接触型社会における「やまなし」ならではの新たな映画の楽しみ方の創出

屋外で使える大型スクリーンとデジタルレーザー映写機、音響プロセッサーを導入した。「ドライブインシアター」や「野外」における映画上映により、既に訪れている新型コロナ後の新しい社会、非接触型社会において、自然や景観をはじめ、山梨にある豊富なシーンを生かし、新たな映画の楽しみ方を創出する。

甲州市塩山上於曾にある老舗映画館「塩山シネマ」。代表を務める渡邊真吾さんは、館内上映やホールなどで行う出張上映とは全く違う新しい映画の楽しみ方として、山梨の自然や景観を生かした野外上映に以前から注目していた。2019年には屋外で使える200インチの海外製スクリーンを導入。そんなときに訪れたのがコロナ禍だった。

映画館を含む各エンタメ業界が打撃を受ける中、渡邊さんは野外上映の一種である「ドライブインシアター」のアイデアを思い付いた。米国の車社会で始まったドライブインシアターは、駐車場にスクリーンを設置し、車の中でカーステレオのFM受信機を使って音声が届くため、非接触で映画を鑑賞できる利点がある。

地元企業に企画を提案し、2020年4月、ラザウォーク甲斐双葉店の屋上駐車場で「春休みドライブインシアター」を開催。看板に幅10メートルのスクリーンを張った大型スクリーンを設置し、音声は車内のFMステレオで流す形で人気アニメーション作品を上映した。企画は大きな話題を呼んだ。「県内外のテレビ局や新聞社から多数の取材依頼があったほか、大手テーマパークからも問い合わせが寄せられて驚きました。全国的に見ても珍しい取り組みだったため注目が集まったようです」

渡邊さんは野外上映に本格的に力を入れるため、



導入した大型のインフレーションスクリーン



デジタルレーザー映写機



2万ルーメンという明るさを誇る

ものづくり補助事業で11.068m×6.225mの大型インフレーションスクリーン(自立式エアスクリーン)とデジタルレーザー映写機、デジタル音響プロセッサーを導入した。

一般的に、屋外にスクリーンを設置する際はまず足場を建てることから始まるため、以前は設営に2日ほどかかっていたが、インフレーションスクリーンはエアポンプで膨らませる仕組み。導入により、短時間・低コストで設営できるようになった。防水加工の素材で雨に強く、強風時は空気を抜くことで、スクリーンが飛ばされたり倒壊したりする危険を避けられる。

デジタルレーザー映写機は、レーザー光源で投影するプロジェクターだ。既存映写機のキセノンランプに対し、切れのあるシャープな画像が特長。映画館専用のデータ作品にも対応できる。明るさは、100メートル四方の会場も十分カバーできるという2万ルーメンを確保している。

デジタル音響プロセッサーは、スピーカーが正面、右前方、左前方、右後方、左後方、低音出力用サブウーファーの6つある5.1チャンネル。音質が良く、出演者のセリフやそれぞれの方向から聞こえる音をしっかりと分離し、臨場感ある音響が楽しめる。

お客さんの背中を見ていた子ども時代。反応が良いとうれしかった

昨年8月には北杜・尾白の森名水公園べるがで「キャンピングシアター」を開催。大自然に囲まれた広場にスクリーンとスピーカーを設置し、日没で暗くなってからアニメ映画を上映した。「映像の良さに加えて音響も好評で、来場した皆さんに喜んでいただきました。大抵、野外上映での音響は2チャンネルが多いのですが、やはり迫力が全く違いますね。上映のシチュエーションにもよりますが、野外でもできる限り5.1チャンネルのハイクオリティな音響でお届けしていきたいです」

今後は、県内の豊かな自然や景観を生かした企画、果実やワインをはじめとする食とのコラボレーションなど、新しい映画の楽しみ方を提案していく。「芸能事務所さんとのコラボレーション企画や、新作洋画の野外上映などを模索しています。売上げの面でも今後、数字を上げていくのが目標です」



野外上映の様子

塩山シネマ

は昭和32年、渡邊さんの祖父・五郎さんが創業した。県内で30館もの映画館を手掛けた祖父は地元の名士でもあり、「ちょっと怖い存在だった」という。「常に紋付き袴のいでたちで威厳があり、気軽に話せる雰囲気ではありませんでした。祖父が運転手付きの車でやって来る日は学校から早めに帰宅し、家族、従業員全員で並んで祖父を出迎えるのが恒例でした」

子どものころから家業を手伝ってきた渡邊さんは、劇場の一番後ろからお客さんたちの背中を見るのが好きだった、と振り返る。「お客さんの背中が動いて、笑ったり泣いたりしているのが分かるんです。反応が良いときは『喜んでもらって良かったですね。学校の友達もよく足を運んでくれて、おかげで昔から友人は多かったです』



現在の塩山シネマ外観

「頑張ってますね」の声を励みに、映画の楽しさをこれからも

塩山シネマは小規模ながらも最新の設備をそろえている。業界内外との豊富な人脈や、機動力のある対応から、大手からインディペンデントまで制作配給会社からの信頼も厚い。こうしたつながりから、大型映画館と同様に豊富な作品を上映できるのが同館の強みだ。2019年の実績で言えば、「トイ・ストーリー4」「アラジン」「アルキメデスの大戦」「マスカレード・ホテル」「ボヘミアン・ラプソディ」など数々の人気作品を上映している。

ホールなどを使って上映する出張上映や野外での上映にも積極的に取り組み、これまでに勝沼映画祭や各ワイナリーでの上映、野外映画とライブのイベント「甲府城で逢いましょう」、「シネマ倶楽部in 葎崎」に協力。豊富な経験とノウハウ、提案力に定評がある。

「僕は今60歳で、この映画館の歴史とほぼ一緒。人生そのものです。がむしゃらにしがみついていたが、なかには『塩山、まだ営業してるの』とか『コ

ンビニに変えちゃえば』なんて言う人もいて、悔しい思いをしました。でもこれだけ長いことやっていると、最近は『塩山さん頑張ってますよね』と応援していただくことが増えました。その言葉に甘えず、まだまだ自分ができることをやっていかなければと考えています」

映画の魅力とは？の問いに、「誰もが自分が生きてきた証を感じられる点」だと言う。「好きな作品を尋ねると人によって答えが異なりますよね。洋画かもしれないし、邦画やアニメ、古い作品のことも。それは、その人だけの思い出や価値観が作品に投影されているからです。その作品を観るだけで、一瞬にして当時の思い出が蘇ってきたり、青春時代に引き戻されたりする。これは映画ならではの醍醐味だと思います」。

渡邊さんは、これからも映画上映を通じて人々に笑いや涙、感動を提供し続けていく。



館内の様子



貴重な当時のアニメ映画のポスターも